

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representation of  
The original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **2000065501 A**(43) Date of publication of application: **03 . 03 . 00**

(51) Int. Cl.

**G01B 3/56**  
**B43L 7/10**  
**G01B 3/06**

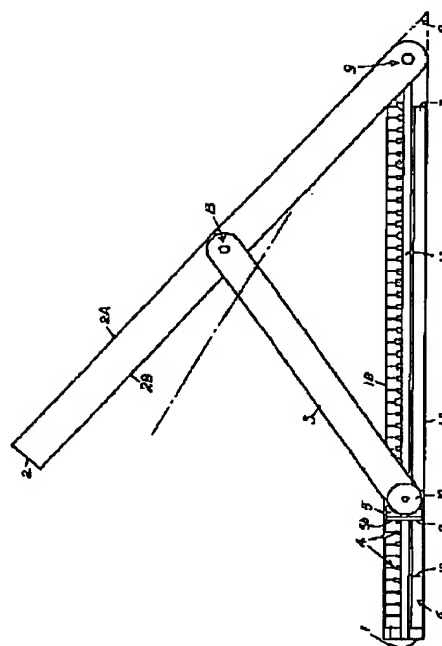
(21) Application number: **10235907**(71) Applicant: **SHINWA SOKUTEI KK**(22) Date of filing: **21 . 08 . 98**(72) Inventor: **UCHIYAMA KENJI**(54) **RULER BODY**

## (57) Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a very convenient and epoch-making ruler body.

**SOLUTION:** This ruler body consists of a first long member 1 having a reference surface in the side part, a second long member 2 which is pivotally fixed to a specified part of the first long member 1 and has a reference surface on the side part, and a continuously connected bridge member 3 wherein one end portion is pivotally fixed to a specified part of the second long member 2, and the other end portion can slide freely on the surface of the first long member 1 in the longitudinal direction of the first long member 1. On the surface part position of the first long member 1, graduations 4 are installed in specified part positions along the traveling direction where the other end portion of the bridge member 3 slides and moves. An index part 5 indexing the graduations 4 is installed in the other end portion of the bridge member 3.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-65501  
(P2000-65501A)

(43) 公開日 平成12年3月3日 (2000. 3. 3)

| (51) Int.Cl. <sup>7</sup> | 識別記号 | F I          | テーマコード(参考) |
|---------------------------|------|--------------|------------|
| G 0 1 B 3/56              |      | G 0 1 B 3/56 | 2 C 0 7 1  |
| B 4 3 L 7/10              |      | B 4 3 L 7/10 | 2 F 0 6 1  |
| G 0 1 B 3/06              |      | G 0 1 B 3/06 |            |

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願平10-235907

(22) 出願日 平成10年8月21日 (1998. 8. 21)

(71) 出願人 591073050

シンワ測定株式会社

新潟県三条市興野3丁目18番21号

(72) 発明者 内山 誠治

新潟県三条市興野3丁目18番21号 シンワ  
測定株式会社内

(74) 代理人 100091373

弁理士 吉井 剛 (外1名)

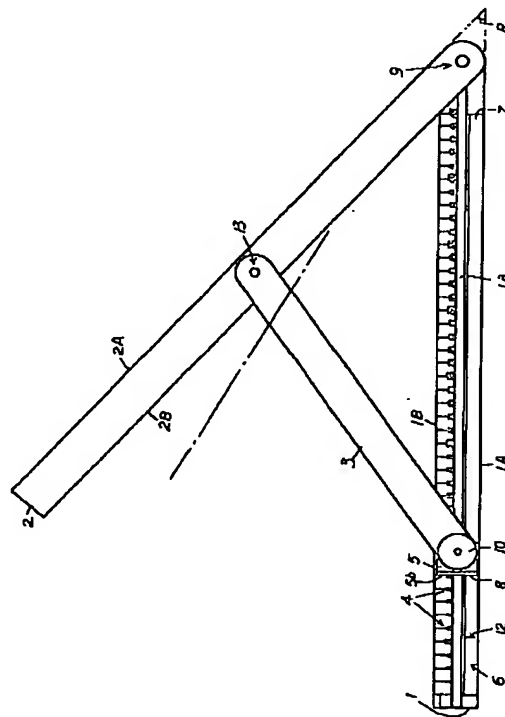
最末页に続く

(54) 【発明の名称】 定規体

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、非常に便利で画期的な定規体を提供することを目的とする。

【解決手段】 側部に基準面を有する第一長尺部材1と、この第一長尺部材1の所定の部分に枢着され側部に基準面を有する第二長尺部材2と、この第二長尺部材2の所定の部分に一端部が枢着され、且つ、他端部が前記第一長尺部材1の表面上を第一長尺部材1の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材3とからなる定規体において、前記第一長尺部材1の表面部位にして前記架設部材3の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に目盛4を設け、この目盛4を指標する指標部5を前記架設部材3の他端部に設けたものである。





1

# 【特許請求の範囲】

【請求項1】 側部に基準面を有する第一長尺部材と、この第一長尺部材の所定の部分に枢着され側部に基準面を有する第二長尺部材と、この第二長尺部材の所定の部分に一端部が枢着され、且つ、他端部が前記第一長尺部材の表面上を第一長尺部材の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材とからなる定規体において、前記第一長尺部材の表面部位にして前記架設部材の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に目盛を設け、この目盛を指標する指標部を前記架設部材の他端部に設けたことを特徴とする定規体。

【請求項2】 前記目盛は、前記第一長尺部材の長さ方向に沿った長さ目盛を採用したことを特徴とする請求項1記載の定規体。

【請求項3】 前記第一長尺部材の表面部位にして前記架設部材の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に所望の目印を書き込みし得る書き込みスペースを前記目盛に沿って設けたことを特徴とする請求項1、2いずれか1項に記載の定規体。

【請求項4】 前記書き込みスペースは、鉛筆やボールペンなどのペン書きしても消えにくい加工若しくは鉛筆やボールペンなどのペン書きしても消えにくいテープ材を付設して構成したことを特徴とする請求項3記載の定規体。

【請求項5】 前記指標部は、少なくとも前記書き込みスペース上を移動するように構成し、この指標部に前記書き込みスペース上に鉛筆やボールペンなどのペン書きをするための定規縁を設けたことを特徴とする請求項1～4いずれか1項に記載の定規体。

【請求項6】 側部に基準面を有する第一長尺部材と、この第一長尺部材の所定の部分に枢着され側部に基準面を有する第二長尺部材と、この第二長尺部材の所定の部分に一端部が枢着され、且つ、他端部が前記第一長尺部材の表面上を第一長尺部材の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材とからなる定規体において、前記第一長尺部材の表面部位にして前記架設部材の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に所望の目印を書き込みし得る書き込みスペースを設け、この書き込みスペース上を移動する指標部を前記架設部材の他端部に設け、この指標部に前記書き込みスペース上に鉛筆やボールペンなどのペン書きをするための定規縁を設けたことを特徴とする定規体。

## 【発明の詳細な説明】

### 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、定規体に関するものである。

### 【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来から、外側部に基準面1A、内側部に基準面1Bを有する第一長尺部材1と、この第一長尺部材1の所定の部分に

(2)



特開2000-65501

2

枢着され外側部に基準面2A、内側部に基準面2Bを有する第二長尺部材2と、この第二長尺部材2の所定の部分に一端部が枢着され、且つ、他端部が前記第一長尺部材1の表面上を第一長尺部材1の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材3とからなる定規体（以下、従来例という。）が提案されている（本実施例と同一構成部分には同一符号を付した。）。また、架設部材3の他端部には、摘子体10を締め付け螺動することで架設部材3の第一長尺部材1の表面上におけるスライド移動を阻止し、第一長尺部材1に対する第二長尺部材2の擺動を阻止するスライド移動阻止機構11が設けられている。

【0003】ところで、この従来例は、例えば第一長尺部材1の表面上を架設部材3の他端部をスライド移動させながら、第二長尺部材2を第一長尺部材1に対して測定したい部分の角度だけ擺動させることで、この第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで測定したい部分の角度を示すことができる。

【0004】従って、従来例は、建築現場などにおける実際の使用場面において、例えば一の枠体の角部（測定したい部分）と同じ角度の角部を有する他の枠体を得ようとする場合、先ず、前述のように第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで一の枠体の角部の角度を得、続いて、この両基準面1A、2A（或いは基準面1B、2B）が示す角度に他の枠体の角部の角度を合わせることで、一の枠体の角部と同じ角度の角部を有する他の枠体を簡単に得ることができ、この他にも、例えば枠体に張り合わせる板材を切断する作業を行う場合、前記同様、第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで一の枠体の角部の角度を得、続いて、従来例を板材の表面にあてがいながら前記基準面1A、2A（或いは基準面1B、2B）に沿って板材を切断したり、或いは、板材の端部に第一長尺部材1の基準面1B（或いは基準面1A）をあてがい第二長尺部材2の基準面2A（或いは2B）に沿って板材を切断したりすることで、枠体の角部に合致した角部を有する板材を簡単に得ることができるなど非常に便利である。

【0005】ところが、従来例は、例えば前の作業で示した角度と同じ角度で示す必要が生じた場合など、一旦角度を変えてしまうと前と全く同じ角度で示すことが極めて困難であるという問題点がある。これは、従来例には、第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで所定の角度を示した際、この角度が何度であるのか把握することができない為であるが、仮に、従来例に10°・20°・・・90°などの角度を把握することができ角度目盛を表示し得る構造を設けようすると、従

来例は、その構造上（構成部材の連結箇所が多く且つ複雑な動作をする構造上）、精度の高い組み立て作業が必要となってしまう極めて量産性が悪くコスト高となるため製品化は実質不可能であるとされる。

【0006】従って、従来例には、第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで示した角度を把握することができるタイプのものは提案されておらず、熟練者でなければ従来例を十分に使いこなせていないのが現状である。

【0007】本発明は、上述の問題点を解決する定規体を提供するものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】添付図面を参照して本発明の要旨を説明する。

【0009】側部に基準面を有する第一長尺部材1と、この第一長尺部材1の所定の部分に枢着され側部に基準面を有する第二長尺部材2と、この第二長尺部材2の所定の部分に一端部が枢着され、且つ、他端部が前記第一長尺部材1の表面上を第一長尺部材1の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材3とからなる定規体において、前記第一長尺部材1の表面部位にして前記架設部材3の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に目盛4を設け、この目盛4を指標する指標部5を前記架設部材3の他端部に設けたことを特徴とする定規体に係るものである。

【0010】また、前記目盛4は、前記第一長尺部材1の長さ方向に沿った長さ目盛を採用したことを特徴とする請求項1記載の定規体に係るものである。

【0011】また、前記第一長尺部材1の表面部位にして前記架設部材3の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に所望の目印を書き込みし得る書き込みスペース6を前記目盛4に沿って設けたことを特徴とする請求項1、2いずれか1項に記載の定規体に係るものである。

【0012】また、前記書き込みスペース6は、鉛筆やボールペンなどのペン書きしても消えにくい加工若しくは鉛筆やボールペンなどのペン書きしても消えにくいテープ材7を付設して構成したことを特徴とする請求項3記載の定規体に係るものである。

【0013】また、前記指標部5は、少なくとも前記書き込みスペース6上を移動するように構成し、この指標部5に前記書き込みスペース6上に鉛筆やボールペンなどのペン書きをするための定規縁8を設けたことを特徴とする請求項1～4いずれか1項に記載の定規体に係るものである。

【0014】また、側部に基準面を有する第一長尺部材1と、この第一長尺部材1の所定の部分に枢着され側部に基準面を有する第二長尺部材2と、この第二長尺部材2の所定の部分に一端部が枢着され、且つ、他端部が前

記第一長尺部材1の表面上を第一長尺部材1の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材3とからなる定規体において、前記第一長尺部材1の表面部位にして前記架設部材3の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に所望の目印を書き込みし得る書き込みスペース6を設け、この書き込みスペース6上を移動する指標部5を前記架設部材3の他端部に設け、この指標部5に前記書き込みスペース6上に鉛筆やボールペンなどのペン書きをするための定規縁8を設けたことを特徴とする定規体に係るものである。

【0015】

【発明の実施の形態】好適と考える本発明の実施の形態（発明をどのように実施するか）を、図面に基づいてその作用効果を示して簡単に説明する。

【0016】本発明は、常法に従い、例えば第一長尺部材1の表面上を架設部材3の他端部をスライド移動させながら、第二長尺部材2を第一長尺部材1に対して測定したい部分の角度だけ擺動させることで、この第一長尺部材1の基準面と第二長尺部材2の基準面とで測定したい部分の角度を示すことができる。この際、架設部材3の他端部に設けた指標部5は第一長尺部材1の表面に設けたある特定の目盛4を指標していることになる。

【0017】従って、従来例は、第一長尺部材1の基準面と第二長尺部材2の基準面とで所定の角度を示した際、この角度が何度であるのか把握することができない為、例えば前の作業で示した角度と同じ角度で示す必要が生じた場合など、一旦角度を変えてしまうと前と全く同じ角度で示すことが極めて困難であり、熟練者でなければ従来例を十分に使いこなすことができないなどの問題点があったが、本発明によればそれらの問題点は確実に解消されることになる。

【0018】具体的には、本発明は、例えば第一長尺部材1の基準面と第二長尺部材2の基準面とで所定の角度を示した際、指標部5である特定の目盛4を指標していることになるから、再び前の作業で示した角度と同じ角度で示す必要が生じた場合など、再び指標部5を前の作業時に指標していた目盛4を指標するように操作することで、第一長尺部材1の基準面と第二長尺部材2の基準面とで所望の角度を迅速且つ正確に示すことができることになり、或いは、例えば予め第一長尺部材1の基準面と第二長尺部材2の基準面とで頻繁に示したい角度を、指標部5がある特定の目盛4を指標した際には何度を示すことになるかを作業者は各自確認しておくようにすれば、所望の角度を迅速且つ正確に把握しながら示すことができることになり、よって、仮に熟練者でなくても作業が良好に行えることになり、しかも、本発明は、以上の使用法が可能となる故に、例えば10°・20°・・・90°などの角度を把握することができる角度目盛を表示するために精度の高い組み立てを行う必要は一切なく、その製品毎の指標部5が指標する目盛4を元にして

良好に作業を行うことができるものであるから、従来から行われているこの種の製品の製造ラインに何ら支障を来すことはなく、極めて量産性に秀れ且つコスト安に製造し得ることになる。

【0019】また、請求項2記載の発明のように構成した場合には、第一長尺部材1に設けた目盛4を長さ寸法を測定する定規体として使用し得るのは勿論、この目盛4を、指標部5がある特定の目盛4を指標した際、この目盛4に指標部5を合わせると第一長尺部材1の基準面と第二長尺部材2の基準面とで何度を示すのか一目で把握することができる目印として有効に利用することができることになる。

【0020】また、請求項3記載の発明のように構成した場合には、例えば使用前に指標部5がある特定の目印を指標した際には第一長尺部材1の基準面と第二長尺部材2の基準面とで何度を示すのか把握できるものであるから、作業者は各自頻繁に使用する角度となる目印を書き込みスペース6に予め書き込んでおけば、作業の際、瞬時に所望の角度を示すことができることになる。

【0021】また、請求項4記載の発明のように構成した場合には、作業者は各自頻繁に使用する角度となるように指標させる目印をいつでも簡単に且つ確実に保持しておくことができることになる。

【0022】また、請求項5記載の発明のように構成した場合には、作業者は各自頻繁に使用する角度となる目印を指標部5の定規縁8に沿わせて簡易に書き込みスペース6に書き込むことができ、しかも、この指標部5で各自書き込んだ目印をいつでも簡易に指標し得ることになる。

【0023】また、請求項6記載の発明のように構成した場合には、例えば使用前に第一長尺部材1の基準面と第二長尺部材2の基準面とで示す角度を、指標部5がある特定の目印を指標した際には何度を示すことになるかを作業者は各自確認して予め書き込みスペース6に書き込んでおくようにすれば、所望の角度を迅速且つ正確に把握しながら示すことができ、よって、仮に熟練者でなくとも作業が良好に行えることになる。

【0024】

【実施例】図1～6は本発明の第一実施例、図7は第二実施例であり、以下に説明する。第一実施例の説明をする。

【0025】第一長尺部材1は、図1～6に図示したようにアルミ製部材を板状に形成して成るもので、この第一長尺部材1の外側部には直線状の基準面1A、内側部には基準面1Aと平行関係の基準面1Bを設けている。

【0026】また、この第一長尺部材1は、その表面にして第一長尺部材1の長さ方向中央部に凹溝1aを設けている。この凹溝1aは、後述する架設部材3の他端部に設けられる摘子体10のスライド杆10aを嵌合連結し得るもので、摘子体10のスライド杆10aは凹溝1aをスラ

イド移動することができることになる。

【0027】また、第一長尺部材1は、その表面一側部位にして前記凹溝1aに沿った所定の部位に目盛4を設けている。この目盛4としては、mm表示及びcm表示の組み合わせから成る長さ目盛を採用している。

【0028】また、第一長尺部材1は、その表面他側部位にして前記凹溝1aに沿った所定の部位に所望の目印12を書き込みし得る書き込みスペース6を前記目盛4に沿って設けている。この書き込みスペース6には、書き易く且つ鉛筆やボールペンなどのペン書きしても消えにくいテープ材7（住友3M社製のメンディングテープ）を貼着している。尚、書き込みスペース6にはテープ材7を貼着する他にも、例えば鉛筆やボールペンなどのペン書きしても消えにくい加工を施すようにしても良い。

【0029】第二長尺部材2は、前記第一長尺部材1と同様、図1～6に図示したようにアルミ製部材を板状に若干第一長尺部材1よりも短めに形成して成るもので、この第二長尺部材2の外側部には直線状の基準面2A、内側部には基準面2Aと平行関係の基準面2Bを設けている。

【0030】この第二長尺部材2は、その端部を前記第一長尺部材1の端部表面に重合状態で収着している（この第二長尺部材2と第一長尺部材1との収着部を第一収着部9とする。）。

【0031】架設部材3は、図1～6に図示したようにアルミ製部材を板状に形成して成るものである。

【0032】この架設部材3の他端部には貫通孔3aが形成されている。この貫通孔3aは、摘子体10の下面に螺着した円柱状のスライド杆10aを貫通させるための孔で、この貫通孔3aに摘子体10のスライド杆10aを貫通させることで架設部材3の裏面から突出状態となる先端部を第一長尺部材1の表面に設けた凹溝1aに回り止め状態で嵌合連結することができる（図5参照）。従って、架設部材3は、第一長尺部材1の表面上を凹溝1aに沿ってスライド移動自在にして第一長尺部材1に対して擺動自在に連設されることになる。

【0033】また、摘子体10は、締め付け螺動することでスライド杆10aの先端部が引き付けられ凹溝1a内面に強く当接して第一長尺部材1の表面上における架設部材3のスライド移動が阻止されることになる。これが、架設部材3の第一長尺部材1の表面上におけるスライド移動を阻止し、第一長尺部材1に対する第二長尺部材2の第一収着部9における擺動を阻止するスライド移動阻止機構11であり、このスライド移動阻止機構11により、第一長尺部材1に対して第一収着部9を介して擺動させた第二長尺部材2を所望の角度に傾斜した状態で保持することもできる。

【0034】また、この摘子体10のスライド杆10aには、適宜な合成樹脂製の部材を成形して成る平面視方形の板状体5が被嵌されている。この板状体5は、その



7

下面に前記第一長尺部材1の表面上に設けた凹溝1aに嵌合し得る突条部5aを設けている。従って、板状体5は、突条部5aにより第一長尺部材1の表面上を凹溝1aに沿って回り止め状態で滑動し得ることになる。

【0035】また、板状体5は、第一長尺部材1の表面上に配設した際、その一端縁が第一長尺部材1の表面上を巾方向に横断した状態で配設されることになる。この板状体5の一端縁は、前記第一長尺部材1の表面一側部位に位置して目盛4を指標する指標縁5bとなり、一方、第一長尺部材1の表面他側部位の書き込みスペース6上に位置してこの書き込みスペース6に鉛筆やボールペンなどでペン書きするための定規縁8となり且つこのペン書きした目印12を指標する指標縁5bとなる。即ち、この板状体5が請求項で言う指標部である。

【0036】また、この板状体5は、第二長尺部材2の厚さと略同一に設定されている。従って、架設部材3を、その一端部を第一長尺部材1の表面上に第一枢着部9で枢着された第二長尺部材2の略中央部表面に重合状態で枢着（この架設部材3と第二長尺部材2との枢着部を第二枢着部13とする。）し、且つ、その他端部を第一長尺部材1の凹溝1aにスライド自在に連設した際、架設部材3は第一長尺部材1に対して間に第二長尺部材2を挟んだ状態（サンドイッチ状態）で連設されることになり、これに伴い、第二長尺部材2は第一長尺部材1よりも若干短く設けられている為、第一長尺部材1の表面上における架設部材3の他端連設部での擺動を伴うスライド移動、第一枢着部9での擺動及び第二枢着部13での擺動により、第二長尺部材2は第一長尺部材1に対して360°擺動することが可能になり、図1の状態から図2の状態へ擺動させて使用することもできることになる。よって、第一実施例は、第一長尺部材1及び第二長尺部材2に係る作業時に使用する基準面を基準面1A、2Aから基準面1B、2Bへ容易に変換し得ることになる。

【0037】本実施例は上述のように構成したから、常法に従い、例えば第一長尺部材1の表面上を架設部材3の他端部をスライド移動させながら、第二長尺部材2を第一長尺部材1に対して測定したい部分の角度だけ擺動させることで、この第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（基準面2B）とで測定したい部分の角度Rを示すことができる。この際、架設部材3の他端部に設けた指標部5は指標縁5bにより第一長尺部材1の表面上に設けたある特定の目盛4を指標していることになる（図1、2参照）。

【0038】よって、本実施例によれば、従来例は、第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで所定の角度を示した際、この角度が何度であるのか把握することができない為、例えば前の作業で示した角度と同じ角度で示す必要が生じた場合など、一旦角度を変えてし

(5)



8

特開2000-65501

まうと前と全く同じ角度で示すことが極めて困難であり、熟練者でなければ従来例を十分に使いこなすことができないなどの問題点があったが、本実施例によれば、例えば第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで所定の角度Rを示した際、指標部5である特定の目盛4を指標していることになるから、再び前の作業で示した角度Rと同じ角度Rで示す必要が生じた場合など、再び指標部5を前の作業時に指標していた目盛4を指標するように操作することで、第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで所望の角度Rを迅速且つ正確に示すことができることになり、或いは、例えば予め第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで頻繁に示したい角度Rを、指標部5がある特定の目盛4を指標した際には何度を示すことになるかを作業者は各自確認しておくようにすれば、所望の角度Rを迅速且つ正確に把握しながら示すことができることになり、よって、仮に熟練者でなくても作業が良好に行えることになり、しかも、本実施例は、以上の使用法が可能となる故に、例えば10°・20°・・・90°などの角度を把握することができる角度目盛を表示するために精度の高い組み立てを行う必要は一切なく、その製品毎の指標部5が指標する目盛4を元にして良好に作業を行うことができるものであるから、従来から行われているこの種の製品の製造ラインに何ら支障を来すことはなく、極めて量産性に秀れ且つコスト安に製造し得ることになる。

【0039】また、本実施例は、第一長尺部材1に設けた目盛4を長さ寸法を測定する定規体として使用し得るのは勿論、この目盛4を、指標部5がある特定の目盛4を指標した際、この目盛4に指標部5を合わせると第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで何度を示すのか一目で把握することができる目印として有効に利用することができることになる。

【0040】また、本実施例は、例えば使用前に指標部5がある特定の目印12を指標した際には第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで何度を示すのか把握できるものであるから、作業者は各自頻繁に使用する角度となる目印12を書き込みスペース6に予め書き込んでおけば、作業の際、瞬時に所望の角度Rを示すことができることになる。

【0041】また、本実施例は、作業者は各自頻繁に使用する角度Rとなるように指標させる目印12をいつまでも簡単に且つ確実に保持しておくことができることになる。また、本実施例は、作業者は各自頻繁に使用する角度Rとなる目印12を指標部5の定規縁8に沿わせて簡易に書き込みスペースに書き込むことができ、しかも、こ



の指標部5で各自書き込んだ目印をいつでも簡易に指標し得ることになる。

【0042】また、本実施例は、例えば使用前に第一長尺部材1の基準面1A（或いは基準面1B）と第二長尺部材2の基準面2A（或いは基準面2B）とで示す角度Rを、指標部5がある特定の目印12を指標した際には何度を示すことになるかを作業者は各自確認して予め書き込みスペース6に書き込んでおくようにすれば、所望の角度Rを迅速且つ正確に把握しながら示すことができ、よって、仮に熟練者でなくても作業が良好に行えることになる。

【0043】次に、第二実施例について説明する。

【0044】第二実施例は、図7に図示したように、単に第一長尺部材1の表面部位にして前記架設部材3の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に所望の目印12を書き込みし得る書き込みスペース6を設け、この書き込みスペース6上を移動する指標部5を前記架設部材3の他端部に設け、この指標部5に前記書き込みスペース6上に鉛筆やボールペンなどのペン書きをするための定規縁8を設けただけの構造にしても良い。即ち、第一実施例にて第一長尺部材1に設けた目盛4を設けなくても所望の目印12を書き込みし得る書き込みスペース6と、この書き込みスペース6に書き込んだ目印12を指標する指標部5とを備えたものでも十分に使用することができることになる。

【0045】その余りは第一実施例と同様のものである。

【0046】

【発明の効果】本発明は上述のように構成したから、仮に熟練者でなくても作業が良好に行えることになり、しかも、精度の高い組み立てを行う必要は一切なく、従来から行われているこの種の製品の製造ラインに何ら支障を来すことはないから、極めて量産性に秀れ且つコスト安に製造し得ることになるなど非常に便利で画期的な定規体となる。

【0047】また、請求項2記載の発明においては、前記請求項1記載の発明の作用効果に加え、第一長尺部材に設けた目盛を長さ寸法を測定する定規体として使用し得るのは勿論、この目盛を、指標部がある特定の目盛を指標した際、この目盛に指標部を合わせると第一長尺部材の基準面と第二長尺部材の基準面とで何度を示すのか一目で把握することができる目印として有効に利用することができることとなるなど非常に便利で画期的な定規体となる。

【0048】また、請求項3記載の発明においては、前記請求項1、2記載の発明の作用効果に加え、例えば使\*

\* 用前に指標部がある特定の目印を指標した際には第一長尺部材の基準面と第二長尺部材の基準面とで何度を示すのか把握できるものであるから、作業者は各自頻繁に使用する角度となる目印を書き込みスペースに予め書き込んでおけば、作業の際、瞬時に所望の角度を示すことができることとなるなど非常に便利で画期的な定規体となる。

【0049】また、請求項4記載の発明においては、前記請求項3記載の発明の作用効果に加え、作業者は各自頻繁に使用する角度となるように指標させる目印をいつでも簡単に且つ確実に保持しておくことができることとなるなど非常に便利で画期的な定規体となる。

【0050】また、請求項5記載の発明においては、前記請求項1～4記載の発明の作用効果に加え、作業者は各自頻繁に使用する角度となる目印を指標部の定規縁に沿わせて簡易に書き込みスペースに書き込むことができ、しかも、この指標部で各自書き込んだ目印をいつでも簡単に指標し得ることとなるなど非常に便利で画期的な定規体となる。

【0051】また、請求項6記載の発明においては、例えば使用前に第一長尺部材の基準面と第二長尺部材の基準面とで示す角度を、指標部がある特定の目印を指標した際には何度を示すことになるかを作業者は各自確認して予め書き込みスペースに書き込んでおくようにすれば、所望の角度を迅速且つ正確に把握しながら示すことができ、よって、仮に熟練者でなくても作業が良好に行えることとなるなど非常に便利で画期的な定規体となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】第一実施例の概略動作説明図である。

【図2】第一実施例の概略動作説明図である。

【図3】第一実施例を示す正面図である。

【図4】第一実施例を示す側面図である。

【図5】第一実施例を示すA-A断面図である。

【図6】第一実施例を示す端面図である。

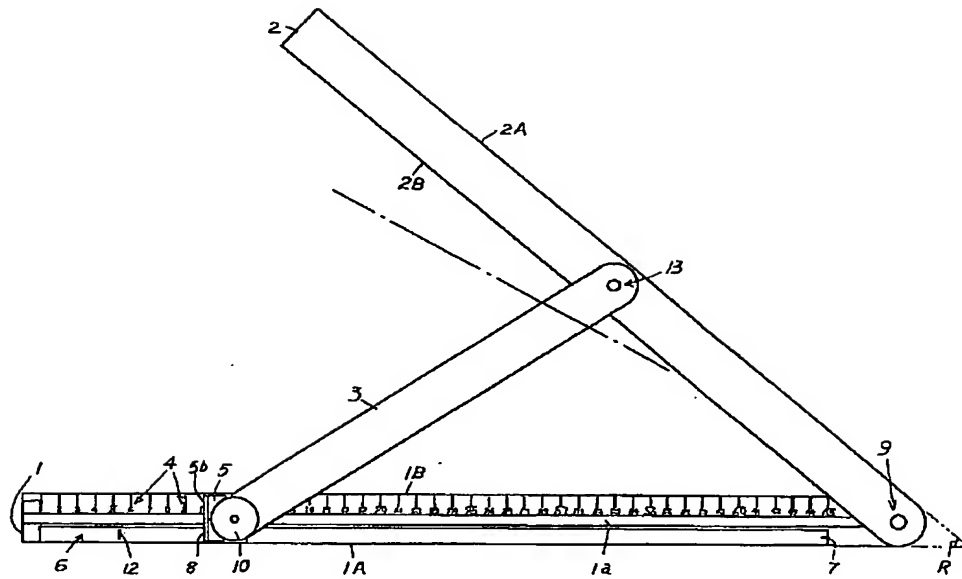
【図7】第二実施例の概略動作説明図である。

【符号の説明】

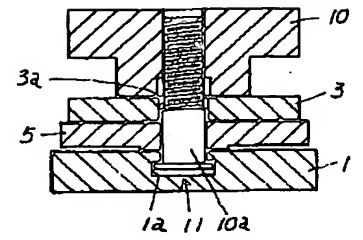
- 1 第一長尺部材
- 2 第二長尺部材
- 3 架設部材
- 4 目盛
- 5 指標部
- 6 書き込みスペース
- 7 テープ材
- 8 定規縁



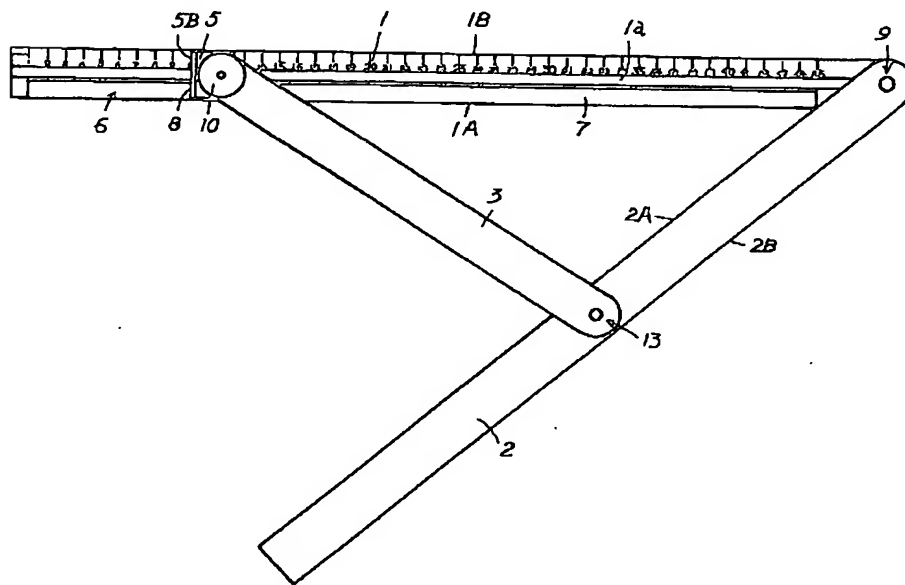
【図1】



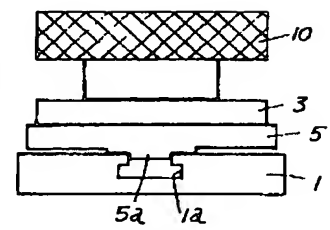
【図5】



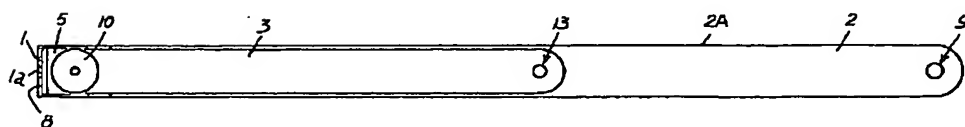
【図2】



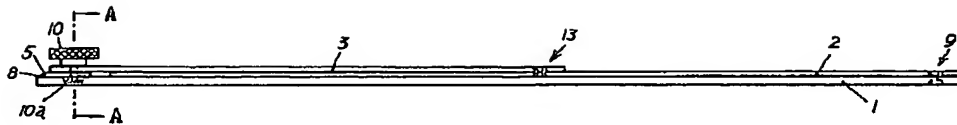
【図6】



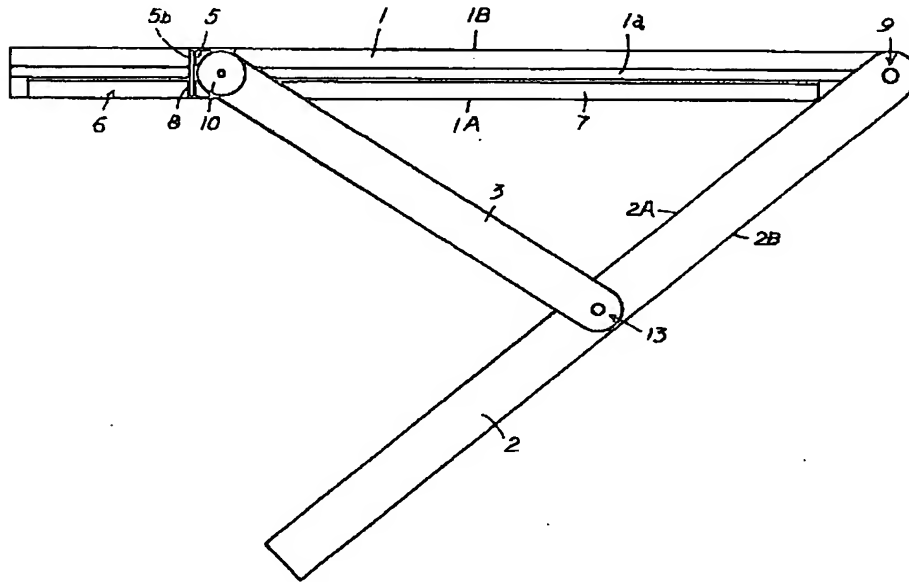
【図3】



【図 4】



【図 7】



## 【手続補正書】

【提出日】平成 11 年 10 月 12 日（1999. 10. 12）

## 【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】定規体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 側部に基準面を有する第一長尺部材と、この第一長尺部材の表面所定部分に重合状態に枢着され側部に基準面を有して当該第一長尺部材よりも短尺の第二長尺部材と、この第二長尺部材の表面略中央部分に一端部が重合状態に枢着され、且つ、他端部が前記第一長尺部材の表面上を第一長尺部材の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材とから成り、前記第二長尺部材は第一長尺部材との枢着部を支点に 360° 擺動し得るように構成された定規体であって、前記

第一長尺部材の表面部位にして前記架設部材の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に目盛を設け、この目盛を指標する指標部を前記架設部材の他端部に設けたことを特徴とする定規体。

【請求項 2】 側部に基準面を有する第一長尺部材と、この第一長尺部材の表面所定部分に重合状態に枢着され側部に基準面を有して当該第一長尺部材よりも短尺の第二長尺部材と、この第二長尺部材の表面略中央部分に一端部が重合状態に枢着され、且つ、他端部が前記第一長尺部材の表面上を第一長尺部材の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材とから成り、前記第二長尺部材は第一長尺部材との枢着部を支点に 360° 擺動し得るように構成された定規体であって、前記第一長尺部材の表面部位にして前記架設部材の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に所望の目印を書き込みし得る書き込みスペースを設け、この書き込みスペース上を移動する指標部を前記架設部材の他端部に設け、この指標部に前記書き込みスペース上に鉛筆やボールペンなどのペン書きをするための定規縁を設

けたことを特徴とする定規体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、定規体に関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来から、外側部に基準面 1 A、内側部に基準面 1 B を有する第一長尺部材 1 と、この第一長尺部材 1 の所定の部分に枢着され外側部に基準面 2 A、内側部に基準面 2 B を有する第二長尺部材 2 と、この第二長尺部材 2 の所定の部分に一端部が枢着され、且つ、他端部が前記第一長尺部材 1 の表面上を第一長尺部材 1 の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材 3 とからなる定規体（以下、従来例という。）が提案されている（本実施例と同一構成部分には同一符号を付した。）。また、架設部材 3 の他端部には、摘子体 10 を締め付け螺動することで架設部材 3 の第一長尺部材 1 の表面上におけるスライド移動を阻止し、第一長尺部材 1 に対する第二長尺部材 2 の擺動を阻止するスライド移動阻止機構 11 が設けられている。

【0003】ところで、この従来例は、例えば第一長尺部材 1 の表面上を架設部材 3 の他端部をスライド移動させながら、第二長尺部材 2 を第一長尺部材 1 に対して測定したい部分の角度だけ擺動させることで、この第一長尺部材 1 の基準面 1 A（或いは基準面 1 B）と第二長尺部材 2 の基準面 2 A（或いは基準面 2 B）とで測定したい部分の角度を示すことができる。

【0004】従って、従来例は、建築現場などにおける実際の使用場面において、例えば一の枠体の角部（測定したい部分）と同じ角度の角部を有する他の枠体を得ようとする場合、先ず、前述のように第一長尺部材 1 の基準面 1 A（或いは基準面 1 B）と第二長尺部材 2 の基準面 2 A（或いは基準面 2 B）とで一の枠体の角部の角度を得、続いて、この両基準面 1 A、2 A（或いは基準面 1 B、2 B）が示す角度に他の枠体の角部の角度を合わせることで、一の枠体の角部と同じ角度の角部を有する他の枠体を簡単に得ることができ、この他にも、例えば枠体に張り合わせる板材を切断する作業を行う場合、前記同様、第一長尺部材 1 の基準面 1 A（或いは基準面 1 B）と第二長尺部材 2 の基準面 2 A（或いは基準面 2 B）とで一の枠体の角部の角度を得、続いて、従来例を板材の表面にあてがいながら前記基準面 1 A、2 A（或いは基準面 1 B、2 B）に沿って板材を切断したり、或いは、板材の端部に第一長尺部材 1 の基準面 1 B（或いは基準面 1 A）をあてがい第二長尺部材 2 の基準面 2 A（或いは 2 B）に沿って板材を切断したりすることで、枠体の角部に合致した角部を有する板材を簡単に得ることができるなど非常に便利である。

【0005】ところが、従来例は、例えば前の作業で示

した角度と同じ角度で示す必要が生じた場合など、一旦角度を変えてしまうと前と全く同じ角度で示すことが極めて困難であるという問題点がある。これは、従来例には、第一長尺部材 1 の基準面 1 A（或いは基準面 1 B）と第二長尺部材 2 の基準面 2 A（或いは基準面 2 B）とで所定の角度を示した際、この角度が何度であるのか把握することができない為であるが、仮に、従来例に  $10^\circ \cdot 20^\circ \cdots 90^\circ$  などの角度を把握することができる角度目盛を表示し得る構造を設けようとする、従来例は、その構造上（構成部材の連結箇所が多く且つ複雑な動作をする構造上）、精度の高い組み立て作業が必要となってしまう極めて量産性が悪くコスト高となるため製品化は実質不可能であるとされる。

【0006】従って、従来例には、第一長尺部材 1 の基準面 1 A（或いは基準面 1 B）と第二長尺部材 2 の基準面 2 A（或いは基準面 2 B）とで示した角度を把握することができるタイプのものは提案されておらず、熟練者でなければ従来例を十分に使いこなせていないのが現状である。

【0007】本発明は、上述の問題点を解決する定規体を提供するものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】添付図面を参照して本発明の要旨を説明する。

【0009】側部に基準面を有する第一長尺部材 1 と、この第一長尺部材 1 の表面所定部分に重合状態に枢着され側部に基準面を有して当該第一長尺部材 1 よりも短尺の第二長尺部材 2 と、この第二長尺部材 2 の表面略中央部分に一端部が重合状態に枢着され、且つ、他端部が前記第一長尺部材 1 の表面上を第一長尺部材 1 の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材 3 とから成り、前記第二長尺部材 2 は第一長尺部材 1 との枢着部を支点に  $360^\circ$  擺動し得るように構成された定規体であって、前記第一長尺部材 1 の表面部位にして前記架設部材 3 の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に目盛 4 を設け、この目盛 4 を指標する指標部 5 を前記架設部材 3 の他端部に設けたことを特徴とする定規体に係るものである。

【0010】また、側部に基準面を有する第一長尺部材 1 と、この第一長尺部材 1 の表面所定部分に重合状態に枢着され側部に基準面を有して当該第一長尺部材 1 よりも短尺の第二長尺部材 2 と、この第二長尺部材 2 の表面略中央部分に一端部が重合状態に枢着され、且つ、他端部が前記第一長尺部材 1 の表面上を第一長尺部材 1 の長さ方向にスライド移動自在となるように連設される架設部材 3 とから成り、前記第二長尺部材 2 は第一長尺部材 1 との枢着部を支点に  $360^\circ$  擺動し得るように構成された定規体であって、前記第一長尺部材 1 の表面部位にして前記架設部材 3 の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に所望の目印を書き込みし得る書

き込みスペース 6 を設け、この書き込みスペース 6 上を移動する指標部 5 を前記架設部材 3 の他端部に設け、この指標部 5 に前記書き込みスペース 6 上に鉛筆やボールペンなどのペン書きをするための定規縁 8 を設けたことを特徴とする定規体に係るものである。

#### 【0011】

【発明の実施の形態】好適と考える本発明の実施の形態（発明をどのように実施するか）を、図面に基づいてその作用効果を示して簡単に説明する。

【0012】本発明は、常法に従い、例えば第一長尺部材 1 の表面上を架設部材 3 の他端部をスライド移動させながら、第二長尺部材 2 を第一長尺部材 1 に対して測定したい部分の角度だけ擺動させることで、この第一長尺部材 1 の基準面と第二長尺部材 2 の基準面とで測定したい部分の角度を示すことができる。この際、架設部材 3 の他端部に設けた指標部 5 は第一長尺部材 1 の表面に設けたある特定の目盛 4 を指標していることになる。

【0013】従って、従来例は、第一長尺部材 1 の基準面と第二長尺部材 2 の基準面とで所定の角度を示した際、この角度が何度であるのか把握することができない為、例えば前の作業で示した角度と同じ角度で示す必要が生じた場合など、一旦角度を変えてしまうと前と全く同じ角度で示すことが極めて困難であり、熟練者でなければ従来例を十分に使いこなすことができないなどの問題点があったが、本発明によればそれらの問題点は確実に解消されることになる。

【0014】具体的には、本発明は、例えば第一長尺部材 1 の基準面と第二長尺部材 2 の基準面とで所定の角度を示した際、指標部 5 である特定の目盛 4 を指標していることになるから、再び前の作業で示した角度と同じ角度で示す必要が生じた場合など、再び指標部 5 を前の作業時に指標していた目盛 4 を指標するように操作することで、第一長尺部材 1 の基準面と第二長尺部材 2 の基準面とで所望の角度を迅速且つ正確に示すことができることになり、或いは、例えば予め第一長尺部材 1 の基準面と第二長尺部材 2 の基準面とで頻繁に示したい角度を、指標部 5 がある特定の目盛 4 を指標した際には何度を示すことになるかを作業者は各自確認しておくようにすれば、所望の角度を迅速且つ正確に把握しながら示すことができることになり、よって、仮に熟練者でなくとも作業が良好に行えることになり、しかも、本発明は、以上の使用法が可能となる故に、例えば  $10^{\circ} \cdot 20^{\circ} \cdot \dots \cdot 90^{\circ}$  などの角度を把握することができる角度目盛を表示するために精度の高い組み立てを行う必要は一切なく、その製品毎の指標部 5 が指標する目盛 4 を元にして良好に作業を行うことができるものであるから、従来から行われているこの種の製品の製造ラインに何ら支障を来すことはなく、極めて量産性に秀れ且つコスト安に製造し得ることになる。

【0015】また、第二長尺部材 2 が第一長尺部材 1 に

対して  $360^{\circ}$  擺動し得るから、例えば作業者が望む状態に簡易且つ迅速に可変し得ることになり非常に便利となる。

【0016】また、請求項 2 記載の発明のように構成した場合には、例えば使用前に第一長尺部材 1 の基準面と第二長尺部材 2 の基準面とで示す角度を、指標部 5 がある特定の目印を指標した際には何度を示すことになるかを作業者は各自確認して予め書き込みスペース 6 に書き込んでおくようにすれば、所望の角度を迅速且つ正確に把握しながら示すことができ、よって、仮に熟練者でなくとも作業が良好に行え、しかも、第二長尺部材 2 が第一長尺部材 1 に対して  $360^{\circ}$  擺動し得るから、例えば作業者が望む状態に簡易且つ迅速に可変し得ることになり非常に便利となる。

#### 【0017】

【実施例】図 1～6 は本発明の第一実施例、図 7 は第二実施例であり、以下に説明する。

【0018】第一実施例の説明をする。

【0019】第一長尺部材 1 は、図 1～6 に図示したようにアルミ製部材を板状に形成して成るもので、この第一長尺部材 1 の外側部には直線状の基準面 1 A、内側部には基準面 1 A と平行関係の基準面 1 B を設けている。

【0020】また、この第一長尺部材 1 は、その表面にして第一長尺部材 1 の長さ方向中央部に凹溝 1 a を設けている。この凹溝 1 a は、後述する架設部材 3 の他端部に設けられる摘子体 10 のスライド杆 10 a を嵌合連結し得るもので、摘子体 10 のスライド杆 10 a は凹溝 1 a をスライド移動することができることになる。

【0021】また、第一長尺部材 1 は、その表面一側部にして前記凹溝 1 a に沿った所定の部位に目盛 4 を設けている。この目盛 4 としては、mm 表示及び cm 表示の組み合わせから成る長さ目盛を採用している。

【0022】また、第一長尺部材 1 は、その表面他側部にして前記凹溝 1 a に沿った所定の部位に所望の目印 12 を書き込みし得る書き込みスペース 6 を前記目盛 4 に沿って設けている。この書き込みスペース 6 には、書き易く且つ鉛筆やボールペンなどのペン書きしても消えにくいテープ材 7（住友 3M 社製のメンディングテープ）を貼着している。尚、書き込みスペース 6 にはテープ材 7 を貼着する他にも、例えば鉛筆やボールペンなどのペン書きしても消えにくい加工を施すようにしても良い。

【0023】第二長尺部材 2 は、前記第一長尺部材 1 と同様、図 1～6 に図示したようにアルミ製部材を板状に若干第一長尺部材 1 よりも短めに形成して成るもので、この第二長尺部材 2 の外側部には直線状の基準面 2 A、内側部には基準面 2 A と平行関係の基準面 2 B を設けている。

【0024】この第二長尺部材 2 は、その端部を前記第一長尺部材 1 の端部表面に重合状態で収着している（この第二長尺部材 2 と第一長尺部材 1 との収着部を第一収



着部9とする。 ) 。

【0025】 架設部材3は、図1～6に図示したようにアルミ製部材を板状に形成して成るものである。

【0026】 この架設部材3の他端部には貫通孔3aが形成されている。この貫通孔3aは、摘子体10の下面に螺着した円柱状のスライド杆10aを貫通させるための孔で、この貫通孔3aに摘子体10のスライド杆10aを貫通させることで架設部材3の裏面から突出状態となる先端部を第一長尺部材1の表面に設けた凹溝1aに回り止め状態で嵌合連結することができる(図5参照)。従って、架設部材3は、第一長尺部材1の表面上を凹溝1aに沿ってスライド移動自在にして第一長尺部材1に対して擺動自在に連設されることになる。

【0027】 また、摘子体10は、締め付け螺動することでスライド杆10aの先端部が引き付けられ凹溝1a内面に強く当接して第一長尺部材1の表面上における架設部材3のスライド移動が阻止されることになる。これが、架設部材3の第一長尺部材1の表面上におけるスライド移動を阻止し、第一長尺部材1に対する第二長尺部材2の第一枢着部9における擺動を阻止するスライド移動阻止機構11であり、このスライド移動阻止機構11により、第一長尺部材1に対して第一枢着部9を介して擺動させた第二長尺部材2を所望の角度に傾斜した状態で保持することもできる。

【0028】 また、この摘子体10のスライド杆10aには、適宜な合成樹脂製の部材を成形して成る平面視方形形状の板状体5が被嵌されている。この板状体5は、その下面に前記第一長尺部材1の表面に設けた凹溝1aに嵌合し得る突条部5aを設けている。従って、板状体5は、突条部5aにより第一長尺部材1の表面上を凹溝1aに沿って回り止め状態で滑動し得ることになる。

【0029】 また、板状体5は、第一長尺部材1の表面上に配設した際、その一端縁が第一長尺部材1の表面上を巾方向に横断した状態で配設されることになる。この板状体5の一端縁は、前記第一長尺部材1の表面一側部位に位置して目盛4を指標する指標縁5bとなり、一方、第一長尺部材1の表面他側部位の書き込みスペース6上に位置してこの書き込みスペース6に鉛筆やボールペンなどでペン書きするための定規縁8となり且つこのペン書きした目印12を指標する指標縁5bとなる。即ち、この板状体5が請求項で言う指標部である。

【0030】 また、この板状体5は、第二長尺部材2の厚さと略同一に設定されている。従って、架設部材3を、その一端部を第一長尺部材1の表面上に第一枢着部9で枢着された第二長尺部材2の略中央部表面に重合状態で枢着(この架設部材3と第二長尺部材2との枢着部を第二枢着部13とする。)し、且つ、その他端部を第一長尺部材1の凹溝1aにスライド自在に連設した際、架設部材3は第一長尺部材1に対して間に第二長尺部材2を挟んだ状態(サンドイッチ状態)で連設されることに

なり、これに伴い、第二長尺部材2は第一長尺部材1よりも若干短く設けられている為、第一長尺部材1の表面上における架設部材3の他端連設部での擺動を伴うスライド移動、第一枢着部9での擺動及び第二枢着部13での擺動により、第二長尺部材2は第一長尺部材1に対して360° 擺動することが可能になり、図1の状態から図2の状態へ擺動させて使用することもできることになる。よって、第一実施例は、第一長尺部材1及び第二長尺部材2に係る作業時に使用する基準面を基準面1A、2Aから基準面1B、2Bへ容易に変換し得ることになる。

【0031】 本実施例は上述のように構成したから、常法に従い、例えば第一長尺部材1の表面上を架設部材3の他端部をスライド移動させながら、第二長尺部材2を第一長尺部材1に対して測定したい部分の角度だけ擺動させることで、この第一長尺部材1の基準面1A(或いは基準面1B)と第二長尺部材2の基準面2A(基準面2B)とで測定したい部分の角度Rを示すことができる。この際、架設部材3の他端部に設けた指標部5は指標縁5bにより第一長尺部材1の表面に設けたある特定の目盛4を指標していることになる(図1、2参照)。

【0032】 よって、本実施例によれば、従来例は、第一長尺部材1の基準面1A(或いは基準面1B)と第二長尺部材2の基準面2A(或いは基準面2B)とで所定の角度を示した際、この角度が何度であるのか把握することができない為、例えば前の作業で示した角度と同じ角度で示す必要が生じた場合など、一旦角度を変えてしまうと前と全く同じ角度で示すことが極めて困難であり、熟練者でなければ従来例を十分に使いこなすことができないなどの問題点があったが、本実施例によれば、例えば第一長尺部材1の基準面1A(或いは基準面1B)と第二長尺部材2の基準面2A(或いは基準面2B)とで所定の角度Rを示した際、指標部5である特定の目盛4を指標していることになるから、再び前の作業で示した角度Rと同じ角度Rで示す必要が生じた場合など、再び指標部5を前の作業時に指標していた目盛4を指標するように操作することで、第一長尺部材1の基準面1A(或いは基準面1B)と第二長尺部材2の基準面2A(或いは基準面2B)とで所望の角度Rを迅速且つ正確に示すことができることになり、或いは、例えば予め第一長尺部材1の基準面1A(或いは基準面1B)と第二長尺部材2の基準面2A(或いは基準面2B)とで頻繁に示したい角度Rを、指標部5がある特定の目盛4を指標した際には何度を示すことになるかを作業者は各自確認しておくようにすれば、所望の角度Rを迅速且つ正確に把握しながら示すことができることになり、よって、仮に熟練者でなくても作業が良好に行えることになり、しかも、本実施例は、以上の使用法が可能となる故に、例えば10°・20°・・・90°などの角度を把握することができる角度目盛を表示するために精度の高

い組み立てを行う必要は一切なく、その製品毎の指標部 5 が指標する目盛 4 を元にして良好に作業を行うことができるものであるから、従来から行われているこの種の製品の製造ラインに何ら支障を来すことはなく、極めて量産性に秀れ且つコスト安に製造し得ることになる。

【0033】また、本実施例は、第一長尺部材 1 に設けた目盛 4 を長さ寸法を測定する定規体として使用し得るのは勿論、この目盛 4 を、指標部 5 がある特定の目盛 4 を指標した際、この目盛 4 に指標部 5 を合わせると第一長尺部材 1 の基準面 1 A（或いは基準面 1 B）と第二長尺部材 2 の基準面 2 A（或いは基準面 2 B）とで何度を示すのか一目で把握することができる目印として有効に利用することができることになる。

【0034】また、本実施例は、例えば使用前に指標部 5 がある特定の目印 12 を指標した際には第一長尺部材 1 の基準面 1 A（或いは基準面 1 B）と第二長尺部材 2 の基準面 2 A（或いは基準面 2 B）とで何度を示すのか把握できるものであるから、作業者は各自頻繁に使用する角度となる目印 12 を書き込みスペース 6 に予め書き込んでおけば、作業の際、瞬時に所望の角度 R を示すことができることになる。

【0035】また、本実施例は、作業者は各自頻繁に使用する角度 R となるように指標させる目印 12 をいつまでも簡単に且つ確実に保持しておくことができることになる。

【0036】また、本実施例は、作業者は各自頻繁に使用する角度 R となる目印 12 を指標部 5 の定規縁 8 に沿わせて簡易に書き込みスペースに書き込むことができ、しかも、この指標部 5 で各自書き込んだ目印をいつでも簡易に指標し得ることになる。

【0037】また、本実施例は、例えば使用前に第一長尺部材 1 の基準面 1 A（或いは基準面 1 B）と第二長尺部材 2 の基準面 2 A（或いは基準面 2 B）とで示す角度 R を、指標部 5 がある特定の目印 12 を指標した際には何度を示すことになるかを作業者は各自確認して予め書き込みスペース 6 に書き込んでおくようにすれば、所望の角度 R を迅速且つ正確に把握しながら示すことができ、よって、仮に熟練者でなくても作業が良好に行えることになる。

【0038】次に、第二実施例について説明する。

【0039】第二実施例は、図 7 に図示したように、単に第一長尺部材 1 の表面部位にして前記架設部材 3 の他端部がスライド移動する移動方向に沿った所定の部位に所望の目印 12 を書き込みし得る書き込みスペース 6 を設

け、この書き込みスペース 6 上を移動する指標部 5 を前記架設部材 3 の他端部に設け、この指標部 5 に前記書き込みスペース 6 上に鉛筆やボールペンなどのペン書きをするための定規縁 8 を設けただけの構造にしても良い。即ち、第一実施例にて第一長尺部材 1 に設けた目盛 4 を設けなくても所望の目印 12 を書き込みし得る書き込みスペース 6 と、この書き込みスペース 6 に書き込んだ目印 12 を指標する指標部 5 とを備えたもので十分を使用することができることになる。

【0040】その余りは第一実施例と同様のものである。

【0041】

【発明の効果】本発明は上述のように構成したから、仮に熟練者でなくても作業が良好に行えることになり、しかも、精度の高い組み立てを行う必要は一切なく、従来から行われているこの種の製品の製造ラインに何ら支障を来すことはないから、極めて量産性に秀れ且つコスト安に製造し得ることになるなど非常に便利で画期的な定規体となる。

【0042】また、請求項 2 記載の発明においては、例えば使用前に第一長尺部材の基準面と第二長尺部材の基準面とで示す角度を、指標部がある特定の目印を指標した際には何度を示すことになるかを作業者は各自確認して予め書き込みスペースに書き込んでおくようにすれば、所望の角度を迅速且つ正確に把握しながら示すことができ、よって、仮に熟練者でなくても作業が良好に行えることになるなど非常に便利で画期的な定規体となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】第一実施例の概略動作説明図である。

【図 2】第一実施例の概略動作説明図である。

【図 3】第一実施例を示す正面図である。

【図 4】第一実施例を示す側面図である。

【図 5】第一実施例を示す A-A 断面図である。

【図 6】第一実施例を示す端面図である。

【図 7】第二実施例の概略動作説明図である。

【符号の説明】

- 1 第一長尺部材
- 2 第二長尺部材
- 3 架設部材
- 4 目盛
- 5 指標部
- 6 書き込みスペース
- 8 定規縁

フロントページの続き

Fターム(参考) 2C071 AA03 AB02 AB09 AD01 AD20  
AG07  
2F061 AA46 CC07 DD22 DD25 DD27  
GG01 JJ03 JJ19 JJ39 JJ61  
JJ85 JJ87 JJ97 LL19 LL37  
LL39 LL44 LL48 UU19 UU21  
VV48